

○中門

・最大の特徴である左右の金剛力士像をCADで描き、レーザーけがき加工にて表現。(図8)

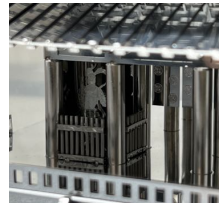
・像を囲う柵は1mmの溶接棒を複数差し込んで溶接する事で、立体感のある仕上がりになりました。(図9)(図10)

・屋根側面部も金堂とは異なる装飾になっているのも見どころで、その装飾に使うパーツはとても小さく、わずか**2.9mmのパーツ**を溶接しています。(図11)(図12)

(図8) CAD画面



(図9)



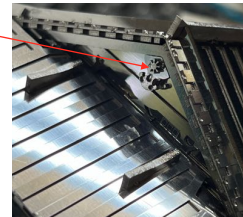
(図10)



(図12)



(図11)



(図13)



○経蔵、鐘楼

・同形状の二つの建物ですが、鐘楼の方は上層部が開口されております(図13)

○回廊

・伽藍を囲う回廊は実物と同様に、中門から東に十一間、西に十間と左右非対称になっています。現在、この西院伽藍は中門が入口ではなく、回廊南西の隅が入口、南東隅が出口となっている為、出入り口の扉は開口しています。(図14)

(図14)



・柱となる142本の丸棒は、土台に穴を開け、差し込んで溶接することで規則的に配列させました。(図15)

(図15)



○六角灯籠、石畳

・**六角灯籠**は建物との比率の関係で、とても小さく作る必要があった為、上部の装飾は小さな2つの部品を十字に差し込み、ピンセットで摘んで固定して溶接しました。(図16)(図17)

(図16)

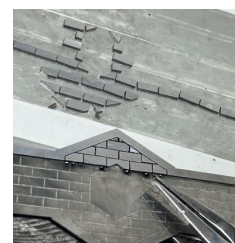


(図17)



六角灯籠

・石畳は、けがき加工で表現すると立体感がなく、規則正しすぎる配列になってしまう為、石となるパーツを分けて、328個を全て一つ一つ溶接し、溶接後の歪みをローラーで矯正する事によって立体感を生み出しました。(図18)



(図18)